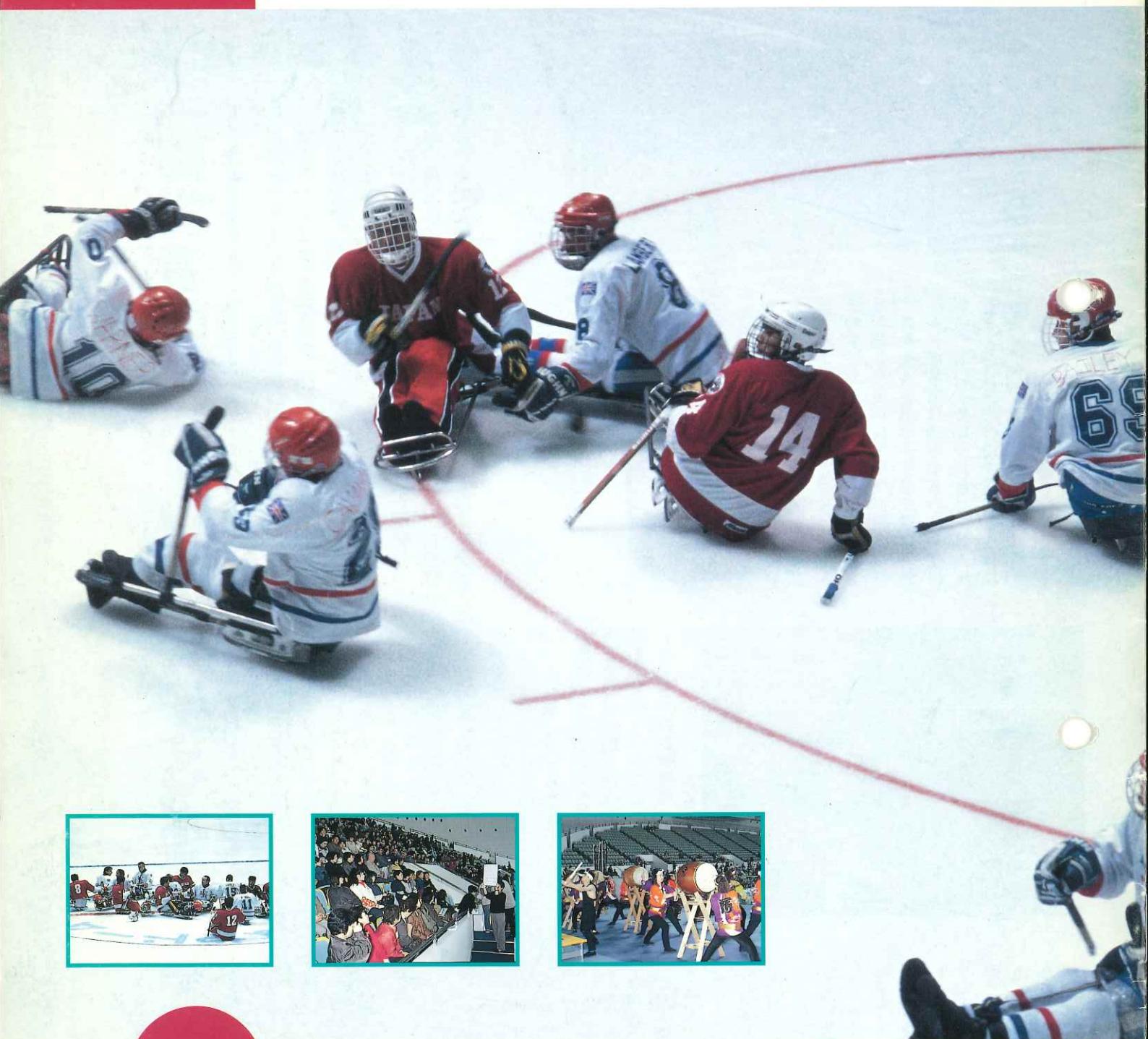


# ボランティア OSAKA



第8号

'97/WINTER

●発行●

(福)大阪府社会福祉協議会  
大阪府ボランティアセンター

特集

「障害者のスポーツ」を支える  
ボランティア

## 「障害者のスポーツ」を支えるボランティア

ヘルスメントナンス機能、自己開発機能、コミュニケーション機能、そしてアミューズメント機能。人間にとつてさまざまな機能（効用）を持つスポーツ。

最近では、多くの障害者が、ニュースポーツの開発や施設の充実などで、さまざまなスポーツを楽しむようになってきた。

そしてそれを支える多彩なボランティア活動も活発化。

本年11月には、身体障害者のスポーツの祭典「ふれ愛びつく大阪」も開催される。そこで今月では、障害者のスポーツを支えるボランティアについて考えてみた。

### 耳の不自由な方たちのための ”情報保障“に取り組む

大阪筆記通訳グループ「ぎんなん」

2月2日の日曜日、なみはやドーム（門真市）メインアリーナにおいて、アイススレッジホッケーの日本初の国際試合が開かれた。

アイススレッジホッケーとは、下

ンピックの正式種目もあり、「ふれ愛ビック大阪」（第33回全国身体障害者スポーツ大会）が開催される今年、そのデモンストレーション競技として開催された。

肢などに機能障害を持つ選手のアイスホッケーで、スケートの刃を付けたスレッジ（そり）に乗り、両手に持ったスティックでそりを操作しながらパックをシュートする。選手は6名。随時交替しながら、15分毎にオドを3回行い得点を競う。パラリ

ボランティアを行ったのが、南浦実永子さんが会長を務める大阪筆記通訳グループ「ぎんなん」をはじめとした、府下の要約筆記サークルの皆

さんだ。スタンド最前列で、ホワイトボードに場内アナウンスを要約筆記し、耳の不自由な方たちのための”情報保障“をするという活動。もちろん、アナウンスの全文は書ききれないと、それだけに筆記スピードといかに要点を的確に…という”編集力“が要求される。

「通常、筆記はアナウンスされる情報の2割ほどしか書けないと言われています。しかも、同時通訳が基本。ですから何を捨てて何を拾うかの、瞬時の判断力が必要なんです。しかしこれも、トレーニングでかなり上達する。文字通訳を選ぶ中途失聴、難聴者の情報保障に欠かせない活動です。それだけにみんな真剣」と南浦さん。

2



# 特集

障害者のスポーツを支えるボランティア

「ナイスショット!」「やった、バー  
ーディーチャンスや!」  
キヤディ役のボランティアの大き  
な声が、寒風の中にこだまする。ク  
ラブを手にしたプレイヤーは思わず  
につこう。そしてボランティアの先

導でグリーンへ移動していく。

今年1月26日、住之江区にあるゴ  
ルフ場のショートコース(8H)で、  
視覚障害を持つ人たちのゴルフ練習  
会が開催された。参加したのは、三

告信彦さんら、障害を持つ7名のブ  
ークスを用意して、各組に分配され  
た玉を打つスポーツ。数あ

## パートナーのエスコートで、 エンジョイ！ GOLF

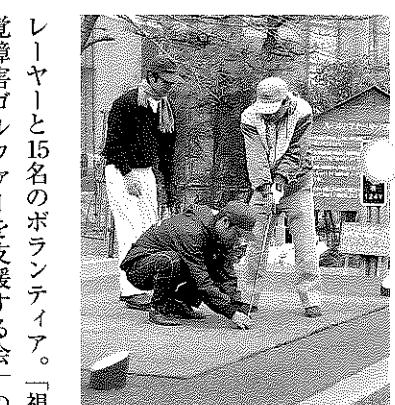
### 「視覚障害ゴルファーを支援する会」

ところでの、言うまでもなくゴルフは老若男女を問わ  
ず、誰もができるスポーツとして親しまれている。しかし視覚障害で中途失明した人たちの、その多くがプレーを諦めているのが現状だ。「けれど…」と三管さんは言う。「動体を追うスポーツに比べ、ゴルフは静止し



場内アナウンスを“要約筆記”する南浦美永子さん

、約80名。昭和58年に発足したこの世界の「老舗」でもあり、現在では「ふれ愛ピック大阪・要約筆記実行委員会」の牽引車の役割も担っている。そのため、この日は、新しく要約筆記ボランティアを始めようとする人たちのための研修を兼ねた催しとなり、試合終了後は別室で研修会が開かれた。その会場でも「要約筆記は自分のための覚書きノートじゃない。あくまでも“通訳”。そしてチームワークが大切」と強調する南浦さん。「ふれ愛ピック大阪」の成功に、彼女たちの活躍が欠かせないのはもちろんだ。



ボールをセットし、グリーンの方向をアドバイスするボランティア

るスポーツの中でも、視覚障害者が取り組みやすいものの一つなんです。スタンスの方向、距離などを同行するパートナーにアドバイスしてもらえば、後は自分のゲームとして進めいくことができるんです」と。こうしたブラインドゴルフは、もともとはアメリカで失明復員軍人のリハビリテーションとして広まったというが、いまでは「国際大会が開かれるほどに世界で普及している」ともいえます。今年は「15年ぶりにクラブを振りました」というのが三管さん。

さて、この日、4組に分かれてプレーを楽しんだ7人だが、「15年ぶりにクラブを振りました」というのが

スボーツの中でも、視覚障害者が取り組みやすいものの一つなんです。スタンスの方向、距離などを同行するパートナーにアドバイスしてもらえば、後は自分のゲームとして進めいくことができるんです」と。こうしたブラインドゴルフは、もともとはアメリカで失明復員軍人のリハビリテーションとして広まったといえます。今年は「15年ぶりにクラブを振りました」というのが三管さん。

二村晃さん。「さすがに昨晩はドキドキ興奮しましたが、まさか再びクラブを握るのは思っていませんでした」と喜びを隠さない。また、二人の息子さんを従えて参加した勝田正数さんも「こうして、息子とプレイをしているときが一番たのしい」とゴルフの魅力を語る。ボランティアの人たちも「ペアを組むと、つい自分がプレイしている気分になつて力が入ります」と口を揃えて語る。ともあれ、この日発足した「視覚障害ゴルファーを支援する会」。大阪におけるブランドゴルフの、力強い第一歩が踏み出されたと言つていい。

### 視覚障害者ゴルフを「一緒に!」

視覚障害者ゴルフに関心あるボランティアの皆様に、パートナーとしてのご協力をお願いします。毎月の練習会に参加して頂けませんか?

※ご希望の方、詳細は大阪府ボランティアセンターまで  
TEL・06-762-9631



プレー前に全員揃って記念撮影

## ボランティアに必要なのは、「一緒に楽しもう」という姿勢

### 「自動車総連」

技術が展開する。一戦、一戦にこだまする声。競技者・観戦者の笑顔が広がり入れ、大玉ころがし、そして綱引き…。紅白に分かれて白熱した競

る。障害者と健常者が一堂に集い、スポーツやイベントを通じて、自立の心と思いやりの心を育もうと、昨年11月、大阪府立体育館で自動車総連の「ふれあいのスポーツ広場」(以下「スポーツ広場」と略)が開かれた。催しには知的障害者の共同作業所、授産施設などを中心に15団体、約600名の障害者が参加。施設職員、保護者などを含め、総勢800人がミニ運動会を楽しんだ。

この催しを企画・運営し、障害者のサポート役を主に務めたのが、自動車総連の組合員たち約120名。昼休みには、おはなしキャラバン「つばさ」による人形劇、ロックバンドによる人気アニメの主題歌の演奏なども披露。楽しい一日を提供した。

「スポーツ広場」は、昭和59年から日産労連が中心となって開催してきた。同組合では20年前から、相互扶助の精神に則り、ハンディキャップをもつ人たちの福祉向上を図ろうと、組合員から月額10円を集め、福祉基金を創設。福祉施設の児童等を対象にした文化行事や開発途上国への援助活動などを実施してきた。

「スポーツ広場」もこうした取り組みの一環にあるもの。障害者問題に対する人々の認識と理解を深めていくことを目的に設立された「(財)国際障害者年記念ナイスハート基金」との共催により、当初は首都圏を中心を開催。平成4年に自動車総連結成20周年を記念して、全国7会場で開かれたのを契機に、以後、自動車総連の行事として大阪でも行われるようになつた。

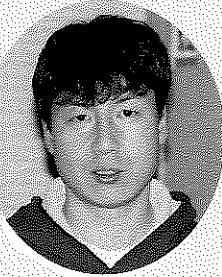
障害者が日常生活の中でスポーツを楽しむ機会は、まだまだ少ないのが現状だ。気軽に参加できる施設がないつたり、適切なインストラクターがいない場合も多い。「行政の努力を促す一方、私たち民間の組織としては、できるだけ多く、障害者と健常者が日常で一緒に楽しめる機会を作り出す」との想いが、多くの団体で実現されつつある。



# 特集

障害者のスポーツを支えるボランティア

## “障害者スポーツ”の裾野を広げよう！



(財)大阪府身体障害者福祉協会  
公認身体障害者スポーツ指導員

久保添 晋明さん

### ●「リハビリのため」という枠を越えて

障害者スポーツは、もともとリハビリテーションの中から生まれました。残存機能の向上と、より早い社会復帰を目的とした“手段”としてスポーツが取り入れられたわけです。しかし現在では、リハビリテーションとしてではなく

スポーツとして取り組むようになってきました。それは、健常者がさまざまな場面でスポーツをレクレーションとして楽しんだり、生涯スポーツとして汗を流したり、また、競技として勝敗にこだわり記録へ挑戦したり…多くの取り組み方がなされているのと同じです。今までは、「かわいそう」とか「気の毒」といった考え方があったかもしれません。しかし現在では、「身体に障害があってもスポーツを楽しむ権利がある」と社会全体が考えるようになりました。また、さまざまな道具の開発、ルールの工夫で、多くのスポーツを楽しめるようになってきました。水泳、バスケット、卓球、カヌー、スキー、陸上競技、サッカーと、数え上げればキリがないほどで、もはや「障害者スポーツ＝リハビリ」というイメージを持つ人のほうが多いのではないでしょうか。

もちろん、障害者それぞれに個別のニーズがあるわけですから、何も競技スポーツだけが優れているわけではありません。しかし、欧米ではプロ選手が存在するほど「1つの競技スポーツ」として確立しています。これらは、単にリハビリや自分が楽しむためのスポーツだけでなく、アスリート（競技者）としてスポーツに取り組み、観客に感動を与えることができるほど定着している証したと思います。私は、それが真のノーマライゼーションだと思うのです。日本もやっと、そんな社会への端緒についたところ…と言えるのではないでしょうか。

ちなみに、アメリカでは、ランディ・スナーという車椅子バスケットボール選手があり、彼は「車椅子バスケのM・ジョーダン」と言われるほどのスーパースターであり、プロのアスリートとして、プレーで生活費を稼いでいます。

### ●自分がやってきたスポーツを、一緒にやって楽しもう

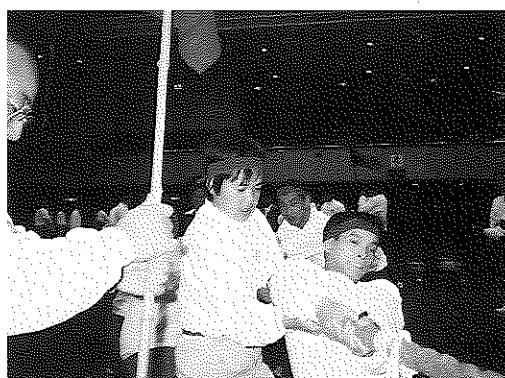
しかし「端緒についたところ」と言ったように、日本ではこれから障害者スポーツの裾野を広げていかなければならぬ段階ですから、より多くの障害を持った方々が「まずスポーツに近づく環境づくり」が大切です。そのためにはハード・ソフト両面での整備が必要で、施設の整備がハードの中心だとすれば、ルールや道具の開発とともに、ボランティアの活躍もまた、私はソフトの充実に欠かせない要素ではないかと思います。そしてぜひ言いたいのが、障害者スポーツを支えるボランティアは、けして難しい事ではないということ。ほとんどの人が学生時代に一つや二つのスポーツは経験しているはずです。その経験を生かし、一緒にやって楽しめ、語り合おう。それだけで立派なボランティアになるのです。自分がプレーしてきて楽しかったスポーツを、「障害を持った方々にも楽しんでもらう」それだけでいいと思います。また、それが一番大切なことです。多くの人がサポートになって障害者スポーツの裾野をどんどん広げていく。そして、やがて日本にもランディ・スナーのようなスターが誕生し、そのことによって多くの障害を持った方々のスポーツへの参加が促進されるような日が来るのを私は願っています。そんな時代と社会を、是非みんなの力で創っていきたいものです。



玉入れに、競技者・参加者の大歓声がこだまする

「スポーツ広場」開催の立役者であり、日産労連大阪地方協議会・議長の湯口安彦さんはこのように語る。  
障害者のスポーツをサポートする場合、ボランティアとしては安全面に配慮する必要があるのはもちろん

「まずは実践すること、そして継続すること。この2つが、この分野のボランティア活動にも不可欠です。豊富な活動経験をもとに、湯口さんはこう結んだ。



## ゆうあいピック（全国知的障害者

### スポーツ大会）に特別協賛

「大同生命保険相互会社」



昨年の第5回北海道大会

知的障害者の全国的なスポーツ大会である「ゆうあいピック」。厚生省などが主催するこの大会は、陸上競

技、卓球、水泳、バーレーボールなどのスポーツを通じて、知的障害者の自立と社会参加の促進を図り、より多くの人に知的障害者に対する理解と認識を深めてもらおうというものだ。

大同生命では創業90周年事業の一つである社会貢献事業の一環として、平成4年の第1回東京大会から特別協賛している。寄付による資金援助とともに、これまで大会運営に延べ1650人がボランティアとして参加。

昨年の第5回北海道大会では、約450人の役職員が事務局業務や選手の介助、会場案内、清掃などを担当した。職員からは、「ボランティアに参加したことでの、今後、障害をもつた人には出会う機会があったとき、今までよりも素直に接することができると思います」。「ボランティアに参加したというよりも、選手のみなさんに私が忘れていた大きなものを感じました。参加するまでは大変だ

ろうなと思いましたが、いざ参加してみるととても楽しかったです」など、さまざまな声が寄せられた。

ゆうあいピック実行委員会事務局長の石谷捷二さんは、「大会終了後、各選手団から、『ボランティアのみなさんの心暖まる応対に感激した』、

『一生忘れられない大会になりました』などの言葉をいただきました。大同生命をはじめ数多くのボランティアの方々の支えがこの大会を成功に導いてくれたのだと思います」と語る。

「資金援助をするだけでなく、職員がボランティアとして『ゆうあいピック』に参加することに大きな意味があると考えています。知的障害者の方々と接することで、日常業務からは得られないさまざまな貴重な体験をする。このような体験を積み重ねていくことで、職員一人ひとりが『会社人』という枠組みを超えて、社会人へと、物事をより深く複眼的な視点でとらえることができるようにな

## 「海が好き、ヨットが好き」 障害者セーリングを支援

「ヨットエイド・ジャパン」

帆に風をはらみ、潮風を肌に感じながら疾走するヨット。海の面白さ、

セーリングの爽快感を身体障害者の

「このではと思います」と、広報部社

会活動推進担当の山元弘久さん。

大同生命では今年10月に開催され

る「ゆうあいピック」愛知・名古屋

大会にも特別協賛を予定しており、多くのボランティアが参加することになっている。



職員もボランティアとして大会運営を支援

# 特集

障害者のスポーツを支えるボランティア



障害者も一緒にやってセーリングの準備

7年目になる。東京を中心に千葉、東海、横浜に支部があり、さまざまな活動を行ってきた。

毎週土・日にヨット体験教室を開催し、障害者と一緒にヨットを楽しんだり、操縦法などをアドバイスしたりといった活動が中心だ。また、障害者セーリングでは歴史のある欧米諸国と連携して、情報交換を行ったり、東京での国際大会も主催。昨年は、体験教室に参加した障害者の中から3人の選手を育てて、アトランタで開かれたパラリンピックのヨット競技に派遣するなどの活動を行ってきた。

障害者がヨットを楽しむためには、マリーナやヨットを障害者が使いやすいように改良していくといったハンド面の整備が欠かせない。そこで

「なみはや国体」に続き、「1月2日～3日に開催される『ふれ愛びつく大阪』（第33回全国身体障害者スポーツ大会）。長居公園（大阪市）、久宝寺緑地（八尾市）、なみはやドーム（門真市）の3会場で、陸上競技・水泳・アーチェリー・卓球の個人競技と、車椅子バスケットボール・グランドソフトボール・バレーボールの団体競技が実施される。大会には全国から2000人以上の選手・役員が集まるが、それを支えるのが延べ8000人を超えるボランティアだ。

「ボランティアとして大会に携わることにより、少しでも多くの方が障害のある人々とふれあうとともに、競技を観戦することで、障害者理解へつなげていけたらと思っています」。大阪府福祉部ふれ愛びつく推進室長の草川大造さんはこう語る。

大会を支えるボランティアは、歓迎ボランティアと専門ボランティアに大別される。歓迎ボランティアは、会場の美化や運営の補助、来場した車椅子利用者や視覚障害者の介助や説明等を担当。開催会場のある三つの市を中心にボランティアが編成される。

一方、専門ボランティアは、選手団サポート、障害者スポーツ指導員、競技アシスタント、手話通訳や要約筆記など。一定の専門的な知識や技能が要求されるボランティアで、関係機関などを通し、現在ほぼ必要人員を確保。選手団サポート、手話通訳、要約筆記などに関しては、す

べりやすいヨットの研究や道具の開発などにも取り組んでいる。一方、ヨットを操縦するためには、小型船舶操縦士免許が必要になる。しかし免許を取得することが難しいのが現実。海外ではこのような免許制度が

ヨットを操作するためには、小型船身体検査基準があるため、障害者が免許を取得することが難しいのが現実。海外ではこのような免許制度が

## 延べ8000人のボランティアが 参加する「ふれ愛びつく大阪」

大阪府福祉部  
ふれ愛びつく推進室長  
草川 大造さん

で定期的に研修を実施し、即戦力と機動力をアップに努めている。

ところで、競技会場では、文字・映像・音声など様々な手段を使って視覚や聴覚に障害のある人々にもリアルタイムで競技の模様を伝えていく。そうした情報機器の操作・運用のボランティアを担当するのも、実際に仕事などでその分野に携わっている人たちで、推進室では「情報保障ボランティア」と呼んでいる。メイン会場では、イベントFM局を開局し、音声放送と同時に文字放送を行う計画もある。大会前のデモンストレーション競技の一つとして、2月2日にはアイススケートホッケーが行なわれたが、その実況放送にあたったのもNHKのアナウンサー。まさに本業を生かしてのボランティアだ。

「ふれ愛びつくを通じて、障害の有無にかかわらず、いろんなスポーツに挑戦することができるのだということを、府民の皆さんに知つてもらつたつた」と語る草川さん。「障害者にとって使いやすいスポーツ施設はどうにあるのか、用具やルールはどう工夫すればいいのか、あるいはボランティアをするにはどうすればいいのか。こうした情報は、まだまだ行き渡っていないのが現状です。必要な情報をだれもが手軽に入手できるようなシステムづくりを進め、全ての人々が一緒にスポーツを楽しめる環境を整えていきたい。それが、障害者の社会参加を促すきっかけにもなると思つんです」。

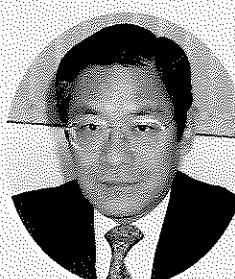
なく誰でもヨットに乗れることから、運輸省に対しても取り組んでいる。一方、ヨットを操作するためには、小型船

関する国際シンボジウムの開催を予定。夏には名古屋と千葉でレースを、秋には全国規模のレースなどを計画

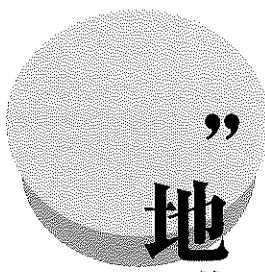
している。さらに今後、全国的に活動の輪を広げていくために、関西でもボランティアを募つていて考えだ。

これらの活動を通じて、「海が好き、ヨットが好き」という仲間を増やす「いいきたい」という。

（連絡先・03-3690-8633）



# 地域にはばたけ! 障害のある子たち



新しい関係づくりにチャレンジする  
**寝屋川養護学校「PTA5日制対策委員会」**

「負」の思いから出発



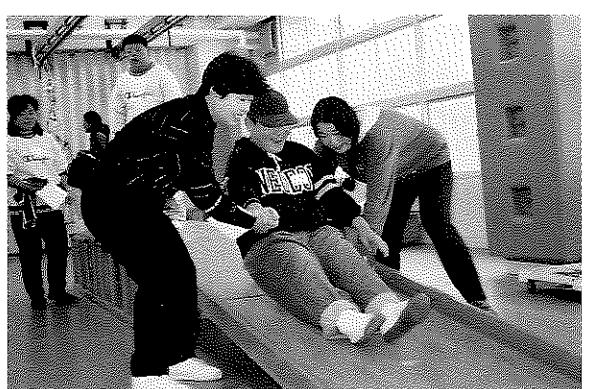
北河内7市を校区とする大阪府立寝屋川養護学校。広範な地域から、小・中・高等部合わせて320人の知的障害児が通う。スクールバスで片道1時間かけて通学するケースもあり、子どもたちは家と学校の往復だけになりがち。近所で遊んだり、友達をつくる機会は少ない。それ以前に、知的障害児に対する社会的理解も浅く、健常児に比べると地域との関わりは稀薄である。社会との接点が極端に少ない障害児にとって、学校は唯一の集団の場。学校に寄せる保護者の期待は想像以上に大きい。

そんな保護者に、文部省による「学校5日制」の発表は、あまりにも衝撃的であった。「たとえ土曜半日でも、学校に行けなくなるなんて、ショックでしたね。土曜休業で『ゆとりの教育』なんていわれても、何それって感じでした」と東野弓子さん(5日制対策委員)は語る。

勢い保護者の気持ちは学校にぶつけられた。教職員の窓口となつた乾勝彦先生は、「まさか養護学校は休まないでしょ。あの子たちから集団の場を奪つなんてことはないやろね」とそらまあ、お母さんはすごい剣幕でした(笑)。今やから笑えますけど、僕ら教職員の方も深刻に受け止めてましたからね。『5日制検討委員会』を設けて、連日話し合いました」

保護者と学校の侃々諤々の中で誰からともなく、「被害者意識では、何にも始まらない。子どもたちのために何かやろう」という声が上がった。集団の場を奪われる「負」の思いから、ならば地域に障害の子を根づかせてやろうという決意に変わっていった。

ボランティアがあつた!



PTAでの話し合いを通して、校区を寝屋川4ブロック、枚方市、交野市、門真市、大東市、守口市、四條畷市の10ブロックに分け、各地域の代表者を選出。平成4年4月「5日制対策委員会」を設立し、地域へはばたくスタートが切られた。しかし、暗中模索の状態が続く。そんな折、北河内ボランティアセンターのコーディネーター東牧陽子さんの講演が行われた。「遊び相手のボランティアもあります。ボランティアとボランティアを求める人をつなぐのが私の仕事。もつと気軽に問い合わせて」という内容だった。



三洋電機のボランティア入門セミナー

「手話や点字、車椅子の介助、施設訪問などを行うのがボランティアで、コミュニケーションの難しい知的障害児には無縁のものだと思っていたんです。ところが東牧さんのお話で、そうじやないことが分かり、目の前がパツと明るくなりました」と東野さん。乾先生も、「教師は施設などにボランティアに行きますが、学校現場にボランティアを要請することはまずありません。そんなことをしようものなら『先生怠慢や、仕事サボってる』という雰囲気もあり、養護学校とボランティアは案外馴染みのないものでした。5日制の取組みは学校行事ではないし、どうか、ボランティアや!」

第1回目の平成4年9月第2土曜は、学校開放と教職員の全面協力で、子どもたちの遊び場を確保。北河内ボランティアセンターをはじめ、大学のボランティアサークルともつながりができた。各地域でも、場所や協力者を求める活動が本格的になつていった。

## 企業の社会貢献との出会い

その頃企業でも時短が進み、余暇にボランティアをしたい企業人が増えていた。三洋電機や住友生命、住友金属工業では、企業の社会貢献の一環として、社員を対象にボランティア入門セミナーを実施。講師にレクチャーや受け、手話や車椅子の押し方などを実習するのだが、ボランティアを行なう場との接点がなく、

これまでに参加したボランティアは約30人。枚方市在住のお母さんは、「遠方よりも地域の方にボランティアをお願いしていることを知る人がたくさんいること

## さらに地域へ、社会へ

これまでに参加したボランティアは約30人。枚方市在住のお母さんは、「遠方よりも地域の方にボランティアをお願いしていることを知る人がたくさんいること



「わいわい交流会」(三洋電機・生駒スポーツセンターにて開催)

平成7年1月14日、寝屋川養護学校において三社と合同イベント「お楽しみ広場」を開催。参加者総数408人と大盛会であった。運営に携わった三洋電機社会業務センター田上玲子さんは、「合同イベントはセミナーを受講した社員が、実際のボランティアに近くステップとして、ありがたい体験でした。寒い時期でしたから、風邪をひかせないか、ケガをさせないかと、三社の担当者は頻繁に打ち合わせをしました」と語る。

これをきっかけとして、各地域の行事に参加する企業人ボランティアが生まれた。また、企業の社会貢献担当者との出会いにより、体育馆やグランドなど社有施設を貸してもらえることも判明。人と場のネットワークが一挙に広がった。



企業人ボランティアが多数参加した「お楽しみ広場」

が、地域につながることだと思ったんです。うちの子は、普段も遊び相手になつてくださるボランティアさんができ、世界が広がりました」また門真市のお母さんは、「ボランティアさんと関わる子どもを見て、親や先生と接するのと違う姿を見ました。子どもは相手によって変わるものだと驚いています。子どもを客観視できるようになり、親の私も変わつたんじゃないかしら（笑）」

子どもを抱え込むばかりだった保護者も、ボランティアとの触れ合いで、徐々に子離れの意識が芽生えてきた。ボランティアと喜々と遊ぶ健常の兄弟を見て、日頃障害の子に手をとられ、寂しい思いをさせていたのかと親子関係を見直すお母さんもいる。

各地域の行事は、ハイキング、プール遊び、スポーツ、お菓子づくりなど多彩だ。ボランティアには、自由に参加してもらいたいが、ある程度の人数が見込めないと企画ができない。恒常に関わってくれるボランティアがもつとたくさん欲しい。毎月活動だより「地域へはばたけ」を発行して、参加を呼び掛けている。

子どもたちを、さらに地域へ、社会へ。お母さんたちのチャレンジは続く。

## 連絡先

●寝屋川養護学校PTA5日制対策委員・東野弓子 06(908)8674  
●寝屋川養護学校5日制検討委員・乾勝彦 0720(24)1024

# 農作物を提供し、給食サービスをバツクアツ。太子町◆「いきいき会」



会」の会合である。

メンバーは15名。平均年齢75歳の、大阪府下ではきわめてユニークな活動を開催するボランティアグループだ。

太子町では今年1月より、地域のお年寄り宅、およびデイサービスセンターでの給食サービスを開始した。この事業に、自分の家で育てたさまざまな作物を、無料もしくはきわめて廉価で提供し、給食の材料として役立ててもらおう…との趣旨で「いきいき会」は発足。「メンバー全員、給食サービスを受けてもおかしくない年齢の人ばかり。でも元気なうちは、なんらかの形で町の役にたとう」ということで会が発足しました」と会長の杉谷栄光さん。発足にあつては、地域の老人クラブ「和光会」も全面協力。「600人の会員全員に呼びかけ、私自身もメンバーになりました」と和光会々長・吉村勝さんも語る。

太子町の給食サービスは毎週4回、こんな会話が飛び交う会合が開かれます。地域の給食サービスを支える太子町の総合福祉センターで毎月

「ワシのところは白菜をもつてくる」「じゃあ、ウチはじやがいもを4kg」「そしたら私はホウレン草を」…。

太子町の総合福祉センターで毎月1回、地域のお年寄りの皆さんの、こんな会話が飛び交う会合が開かれます。地域の給食サービスを支える太子町の総合福祉センターで毎月

「いきいき会」の皆さん、それぞれの提供作物の種類と量、福祉センターへの搬入日を決めていく。そして太子町では、調理面でも地域の女性ボランティアが活躍し、さらに福祉センターの農園の収穫物も、給食サービスの食材として提供され

るという。

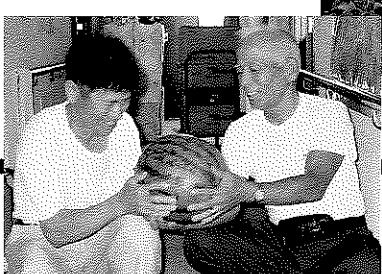
「ふれあい農園」という、虚弱なお年寄りに土いじりを楽しんでいたたく小さな畑ですが、ここでもまた、元気なお年寄りがボランティアで活躍してくださっています。人口1万3000人の町ですから、文字通りの地域ぐるみです」と、これらの活動をコーディネーターする太子町社協の社会福祉活動専門員・上野光栄さんは説明する。ふれあい農園は、会長の植木治一さんや石谷勝さん、森井平治さんらの活躍で、さとも、こまつな、ちんげん菜など、季節の新鮮な野菜がとれ、これも「いきいき会」提供の野菜や米と一緒に調理されるというわけである。

都会ではできない、太子町ならではの給食サービスを支えるボランティア。そのユニークな活動に、いま全国の注目が集まっている。

太子町の給食サービスは毎週4回、月・火・木・金に約100食が配られるが、1カ月前に6人の栄養士さんが作るメニューを睨みながら、「いきいき



調理面でもボランティアが大活躍



ふれあい農園の収穫物も食材に提供される

# ズームアップ

ボランティア  
サークル

## 観光や娯楽のための外出介助にも対応

### 視聴覚障害者支援の会「クローバー」



で必要な書類などの代読代筆もしている。会員は兵庫・大阪をはじめとする近畿一円から集まつた約70名。

震災以後、「何かお役に立てば」とこのボランティアを始めた人が多い。

視覚障害者の通院や買い物だけでなく、観光や娯楽のための外出介助にも対応。被災地以外からの依頼も

増え、最近は活動件数も月約70件に。

手引きの際の交通費は、原則として利用者が負担。ただし、会員が待ち合わせ場所まで行くのに必要な交通費（往復）は、500円を超える場合、会が負担することにしている。

「潤いある生活を送るには、文化や娯楽にふれることも不可欠な要素です。目の不自由な人たちのそんな人の外出を介助するときの方法を実習しているのは視覚障害者支援の会「クローバー」のメンバーたち。

同会は、阪神大震災で阪神間の街並が一変したため、外出がより一層困難になった視覚障害者の外出のお手伝いをしようと、平成7年4月に結成されたボランティアグループ「歩合させて外出先の病院や市役所など

連携しながら、一段と活動の幅を広げている。

#### ボランティア募集

外出介助をしてくださる方を募集しています。年齢は問いません。平日は活動できる方、大歓迎！

※「クローバー」連絡先

西区玉佐堀1-4-1 前田ビル  
TEL 06(447)6686  
(月・水・金 10時30分~16時)



アイマスクをつけて、外出介助のしかたを実習



募集人数	2~3名
応募条件	専門学校以上の学生及び社会人
活動日時	月曜日~金曜日 午前9時~午後5時 (月曜日~土曜日あり。相談に応じます。)
食事	用意します。交通費は実費支給。
担当者	西田(にしだ)

---

とんぼ作業所	
住 所	〒567 大阪府茨木市南田町一-11-6 TEL 0726 (33) 2400
最寄り駅	阪急京都線茨木市駅下車バス15分・徒歩10分
活動内容	障害者のための通所授産施設です。
担当者	当田は施設全体でお預かりになります。

お弁当を食べたり、公園の中を歩いたり、野球やサッカーを楽しんだり、戸外で一日楽し過しました。食事や歩行の手助けをしたり、仲間たちと一緒に体を動かして戸外での一日を楽しんでください。

---

老人ホーム合掌荘	
住 所	〒572 褒磨川市成田東が丘28-7 TEL 0720 (33) 0000
最寄り駅	京阪電鉄香里園駅下車京阪バス成田不動尊前下車
活動内容	ホームで生活している利用者(お年寄り)の散髪
担当者	入浴時に脱衣した衣類の洗濯、取り入れた衣類の整理

・寮母を補佐し、居室や廊下の清掃を援助  
・クリーナーやグルーバークの指導や援助  
・外出(ショッピング等)の付き添い  
・中学生~60歳位まで  
・活動日時  
月曜日~土曜日(ボランティアの方と調整)  
・食事  
用意します。交通費は実費支給。  
・担当者 宮城(みやぎ)

---

社会福祉法人「スモス せんぼく障害者作業所	
住 所	〒590-01 堺市檜尾1-382-6 TEL 0722 (33) 4520
最寄り駅	泉北高速線堺美木多駅下車徒歩15分
活動内容	知的障害者の作業援助や外出、行事等の援助。
担当者	西田(にしだ)

活動日時	ご都合の良い時で結構です。 (作業は月曜日~金曜日 10時~3時です)
交通費	実費払い1,000円まで
食事	用意します。
担当者	堤(ひづる)

---

おおはな障害者作業所	
住 所	〒590 堺市大浜南町一-7-3 TEL 0722 (24) 1919
最寄り駅	南海本線湊駅下車徒歩5分
活動内容	精神薄弱者授産施設でカンフルボン、車輪、芋作り、ほつせつ、紙づくりなど、グループに分かれての作業補助。
担当者	専門学校の学生~50歳位まで

おおはな障害者作業所の学生が月曜日~金曜日 9時30分~15時30分用意します。

---

堺南通所授産所	
住 所	〒573 堺市平井67-1-2 TEL 0722 (78) 5681
最寄り駅	泉北高速線泉ヶ丘駅バス10分
活動内容	軽作業と日常生活の補助です。
担当者	通所者のお友達になつてください。 ハイキングの介助(3月10日のみ)

堺南通所授産所の学生が月曜日~金曜日 9時30分~15時30分用意します。

---

大阪府立金剛口二じいのき寮	
住 所	〒584 富田林市大字甘南備2-1-6 TEL 0721 (34) 21-84
最寄り駅	近鉄南大阪線富田林駅金剛バス20分
活動内容	入所者の介助及び外出の付添い、行事の手伝い、環境整備。
担当者	専門学校生以上

大阪府立金剛口二じいのき寮の学生が月曜日~金曜日 9時30分~15時30分用意します。

---

第2さつき障害者作業所	
住 所	〒565 吹田市山田西2-13-8 TEL 06 (878) 2090
最寄り駅	大阪モノレール・阪急千里線山田駅徒歩15分
活動内容	①軽作業(食品の袋詰めや部品の組立て)や日常生活(食事・移動)への援助。 (定期的に来てくださる方、週一~二回から可) ②外出や外でのとりくみ、クリーナー活動、喫茶コーナーでの手伝いなど。
担当者	料理、絵画、茶道等を月一回教えてくれる人。 「サークル平和」 日帰り旅行やキャンプ等と一緒に参加してくれる人。

第2さつき障害者作業所の学生が月曜日~金曜日 9時30分~15時30分用意します。

---

大坂府立金剛口二地域福祉課 グループホーム室	
住 所	〒584 富田林市大字甘南備2-1-6 TEL 0721 (34) 3621
最寄り駅	近鉄南大阪線富田林駅金剛バス20分
活動内容	「あ・そ・ぼの会」
担当者	恩塚(おんづか)

大坂府立金剛口二地域福祉課 グループホーム室の学生が月曜日~金曜日 9時30分~15時30分用意します。

---

交通費	実費払い1,000円まで
食事	用意します。
担当者	グループホーム室入田(じゅりた)

活動場所	社会福祉法人「スモス せんぼく障害者作業所
応募条件	専門生以上の方
活動日時	月曜日~金曜日 10時~15時30分
担当者	グループホーム室入田(じゅりた)

---

大阪府立金剛口二地域福祉課 グループホーム室	
住 所	〒584 富田林市大字甘南備2-1-6 TEL 0721 (34) 21-83
最寄り駅	近鉄南大阪線富田林駅バス20分
活動内容	自ら負担。(行事内容による補助します)
担当者	藤村(ふじむら)

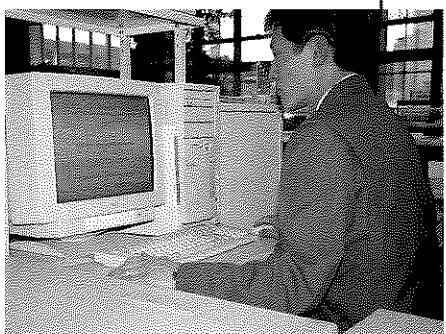
## 大阪中央郵便局に ボランティアコーナーが オープン!!



2月から大阪中央郵便局の1階にボランティアコーナーが開設されました。国際ボランティア活動に関する情報を提供するとともに、専門家によるボランティア活動に関する相談を月に2回受け付けています。窓口ではインターネットやパソコン通信でボランティア情報を検索してくれるので、団体の活動内容やイベントなどの情報を得ることができます。

このコーナーは、国際ボランティア貯金の寄付金の活用状況や、寄付を受けたボランティア団体に関する情報を知るために設けられたもの。国際ボランティア貯金の加入者は全国で2030万人で、平成8年度は全国23の民間海外援助団体が実施する事業に約15億7500万円の寄付金が贈られました。大阪府下では、19団体が寄付を受けていることから、これらの団体の活動内容等を紹介するパンフレットや資料が閲覧・持ち帰りできるほか、パネル展示もされています。

なお、大阪府下72か所の普通郵便局でも3月中には順次、ボランティアコーナーがオープンする予定。郵便局へ行ったついでに、ボランティア情報をのぞいてみるといいでしょう。



大阪府立金剛「口二」地域福祉課 サーブル「ひまわり」

住 所 〒584 富田林市大字甘南備216

TEL 0721 (34) 3610

最寄り駅 近鉄南大阪線 富田林駅 金剛バス20分

活動内容

施設入所者のサークル活動ではなく、在宅障害者の方の日曜日の活動です。

(映画・三カノ狩り・ボウリング・カラオケ等)

月1回実施しています。現在メンバーは50名。(障害者22名、ボランティア22名、職員1名)

応募条件

短大生以上

活動日時 毎月1回日曜日(不定期)

活動場所 富田林市近辺及び大阪市内

担当者 地域福祉課 阪口(さかぐち)

大阪府立金剛「口二」 もみのき寮

住 所 〒584 富田林市大字甘南備216

TEL 0721 (34) 3594

最寄り駅 近鉄南大阪線 富田林駅 金剛バス15分

活動内容

入所者の外出時の付添い・施設内の行事の手伝い

応募条件

専門学校生(55歳位まで)

活動日時 月1回程度

活動場所 当施設から富田林近辺への外出先までの往復

交通費 入所者の付添にかかる交通費については実費支給

食 事 用意します。(外食していただくときもあります)

活 动 内 容 活動内容

外出付添い等。

活動内容

外出付添い等。

応募条件

専門学校生(50歳位まで)

活動日時 相談によって決定します。

活動場所 施設 富田林市、河内長野市内等近辺

交通費 活動中の交通費については用意します。

食 事 用意します。

担 当 者 川端(かわばた)

大阪府立金剛「口二」 ひのき寮

住 所 〒584 富田林市大字甘南備216

TEL 0721 (34) 3594

最寄り駅 近鉄南大阪線 富田林駅 金剛バス15分

活動内容

入所者の外出時の付添い・施設内の行事の手伝い

募集人数 3名

身体障害者通所施設 堺あけぼの園

住 所 〒590-01 堺市御池台5-2-6

TEL 0722 (92) 9002

最寄り駅 泉北高速線相美木多駅下車

活動内容 バス御池台5丁目下車5分

①3月20日(祭日)

堺あけぼの園祭における重度身体障害者の  
・諸介助活動(移動・食事・トイレ等)  
・諸プログラムの進行及びお手伝

②日常の作業活動のお手伝と指導・生活介  
助・レクリエーション・文化・スポーツ活  
動における介助・協力活動

①10人程度

②常時2~3人

応募条件 専門学校生(55歳位まで)

活動日時 ①平成9年3月20日(水・祭日)9時~17時頃  
②月曜日~金曜日 9時30分~15時

交通費 一律1000円(日常ボランティアを除く)

食 事 用意します。

担 当 者 米田(よねだ)

## ●「掘り出しだ」で 地域住民と交流



### 情報コーナー

#### シニアのためのボランティア座

定年後や子育てが終わって迎えるセカンドライフをいきいきと過ごすために、もうひと働きしたい。まだまだ元気だし、これまでに築いた経験や腕を活かしてボランティア活動をしてみたい、と考える人が増えています。そうした人たちにのびのび活躍していただきために、以下の要領で公開講座を開きます。

**※当日の運営や模擬店等をお手伝いしてくれるボランティアも募集しています。詳しくは茨木市社会福祉協議会まで TEL 072-262-0033**

阪南市の障害者更生施設「ふれ愛ホーム」で、1月21日に「掘り出し市」が開催されました。この催しは地域の人たちにホームのことを知つてもらうとともに、障害者とのふれあいを深めるために開かれたもの



です。当日は牛乳パックや古着などの不用品を利用した手芸ボランティアによる手づくり作品や、地域住民から寄贈された日用雑貨などが販売されました。品定めをする人、ふるまわれた福だいこんをおいしそうに食べる人など、なごやかな一日を過ぎました。

#### 福祉の管弦楽団まじりの団員募集

募集メンバー 第一バイオリン  
条件 日曜の午後、月に2回程度の例会（大阪市内又は近郊）に参加できる方。

音楽だけでなく福祉的な取り組みも体験したい方。

活動内容 音楽などの「じぶんのボランティア活動」連絡先 TEL 06(2295)0309(夜間)仲川まで

仲川まで

主催 茨木市ボランティア連絡会

#### ボランティアの集い みんな集まれボランティア

茨木市内のボランティアグループや福祉関係団体等が集まり、お互いの活動を紹介したり、またボランティアに関心のある方々にも参加してもらい、ボランティア活動や福祉について理解を深めてやろうなどの交流の場として開催します。

日時 平成9年4月29日(祝日)

午前11時～午後3時

場所 茨木市役所前中央公園北グランド\*茨木市駅前4丁目7番50号(市民会館東側)

内容 ミニコンサート、ウォーキング、バザーモデル店、手づくりおむちやや折り紙の実演と体験、車椅子・アイマスクでの体験「一ナ」、等々

主催 茨木市ボランティア連絡会

#### ボランティアさん大募集！

障害者の「働きたいんだ」という願いを実現するため、全国で作業所づくり運動に取り組んでいる障害者・家族・職員・関係者が大阪に集い、全国大会を開催します。この大会には全国から500人が参加し、そのうち2000人が障害を持つ方々の参加となる予定です。この方々の受付・案内・会場設営などを担つて頂くボランティアさんを募集しています。事前講習会なども計画中です。あなたの力を貸してください。

活動日時 平成9年6月7日(土)

午前8時30分～午後7時30分 8日(日)午前8時30分～午後4時

活動場所 アジア太平洋トレードセンター(ATC)  
大阪南港

活動内容 大会受付・会場案内・介助・駅までの道踏案内など  
募集団体名 共同作業所全国連絡会 大会事務局  
TEL 06(934)5332 FAX 06(934)2636

主催 フィラソロピー・コンサート実行委員会  
連絡先 大阪府ボランティアセンター TEL 06(762)9631

日時 平成9年6月7、8日

主催 フィラソロピー・コンサート実行委員会  
連絡先 大阪府ボランティアセンター TEL 06(762)9631

# 日本海を救おう!

## 箕面市社協が重油回収ボランティア

日本海沿岸に深刻な被害をもたらしている、ロシアタンカーの重油流出事故。全国各地から大勢のボランティアが駆けつけているが、去る2月11日、箕面市社会福祉協議会の呼びかけで重油回収支援の日帰りボランティアが行われた。高校生も含めた46名のボランティア部隊は、バス1台をチャーターし、鳴き砂で有名な琴引浜での作業に従事。吹雪きのなか、懸命の重油回収作業をおこなった。



## 重油回収 日帰りボランティア募集!

大阪府社会福祉協議会 大阪府ボランティアセンターでは、観光労連の協賛および大阪ボランティア協会の協力により、京都府竹野郡網野町へ重油回収と運搬作業を行うボランティアを募集しています。

実施日	2月25日(火)、27日(木)、3月4日(火)、6日(木)、11日(火)、13日(木)、18日(火)、20日(木)、25日(火)、27日(木)
集合場所	大阪社会福祉指導センター玄関前 地下鉄谷町線「谷町6丁目」駅下車4番出口南へ徒歩5分、または千日前線「谷町9丁目」駅下車2番出口北へ徒歩7分
参加対象	高校生以上60歳未満の健康な方(各回定員45人・先着順)
集合時間	午前7時45分(時間厳守)
出発時間	午前8時
解散時間	午後7時ごろ(大阪社会福祉指導センター着)
参加費用	一人1500円(弁当代、防臭マスク代など)

天候等により中止する場合もあります。現地受入れ団体の丹後ボランティアネットの判断で決定しますので、現地到着後の中止も考えられます。ご了解ください。

問い合わせ 大阪府社会福祉協議会 大阪府ボランティアセンター TEL. 06(762)9631